



# 静岡への メッセージ

Message to  
SHIZUOKA

徳川恒孝氏

(財)徳川記念財団 理事長  
徳川宗家十八代当主

Tsunenari Tokugawa



経歴

1940年(昭和15年)東京生まれ。学習院大学在学中に英国に2年滞在。同大卒業後、日本郵船株式会社に入社。2度のニューヨーク勤務を経て、同社代表取締役副社長。2002年より2009年まで同社顧問。(財)徳川記念財団理事長。(財)WWF世界自然保護基金ジャパン会長。主な著書に「江戸の遺伝子」。

## 新しい静岡への期待

先日目出度く国宝に認定された久能山東照宮に、亡くなった祖父(養父)徳川家正の跡継ぎとして、私が初めて衣冠装束で正式参拝をしたのは昭和三八年ですから、もうすぐ五〇年前のことになります。静岡駅で旧幕臣の子孫の方々に出迎えられ、慶喜公の住まいわかれた浮月楼に泊り、そこで装束を着けての作法を習ったのは懐かしい思い出です。

その翌年に私は日本郵船に入社し、配属された本社北米航路担当者として、蜜柑の船積みに出立ち会う為に、毎年晩秋の清水に出張しました。実際にはベテランの現場監督がいるのですから、新入社員の私は出来るだけ作業の邪

魔にならぬように船内をうろろろするだけで、本船出港見送り後の二杯が誠に美味しい良き時代の出張でした。

つまり私には歴史と文化の静岡市と、国際海運都市の清水市と言う二つの入り口があった訳ですが、両市合併後の今日の静岡市は家康公が大御所として居られた当時の大国際都市駿府を再現したことになります。(大御所時代の駿府の人口は十万を超えていました。これは当時世界十指に入る大都市です。)

大御所として駿府に戻った家康公は、専ら外交に力を入れました。まず朝鮮との国交回復です。文禄慶長の役で日本に連れて来られた朝鮮の人々

